

# 汎用的能力と専門的能力の 獲得に向けた 教育プログラムの提案

創価大学 教育学部  
舟生 日出男

# 本日の内容

- 汎用的能力と専門的能力の接続
- どちらも、**社会文化的アプローチ**に基づいて育成
- 足場掛け(≡ファシリテータ)としての**先導的な学生**の育成・活用を教育プログラムに組み込む

# 汎用的能力と専門的能力

## ■ 汎用的能力

- ✓ 領域非依存、領域横断的。実生活でも。

## ■ 専門的能力

- ✓ 領域依存。専門性が求められる場面で。
- \* 専門的能力のベースとなる汎用的能力を設定
- \* 具体的には、各学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに沿って、策定されるべき
- \* **どちらも、簡単に“伝達”できるものではない**

# 汎用的能力の例

1. **メタ認知**
2. **タイムマネジメント力**
3. **キャリアヴィジョン**
4. **アカデミックスキルとしてのレポート作成能力**
5. **非言語コミュニケーション能力**
6. **多声的思考**
7. **知的ツールの活用**
8. **協同学習のスキル**

# 従来の教育観・学習観

- **知識の input / output**
  - ✓ 断片的、Q&A的
- **知識の伝達**
  - ✓ 教師から学習者へ、一方的に
- **一斉講義**
  - ＊ **学生は受動的**

# これからの教育観・学習観

## ■ 知識の活用

- ✓ 総合的に使いこなす
- ✓ 必要に応じて、新たに獲得

## ■ 社会文化的アプローチ

- ✓ 多様な文脈：目的、具体的方法、相手、仲間

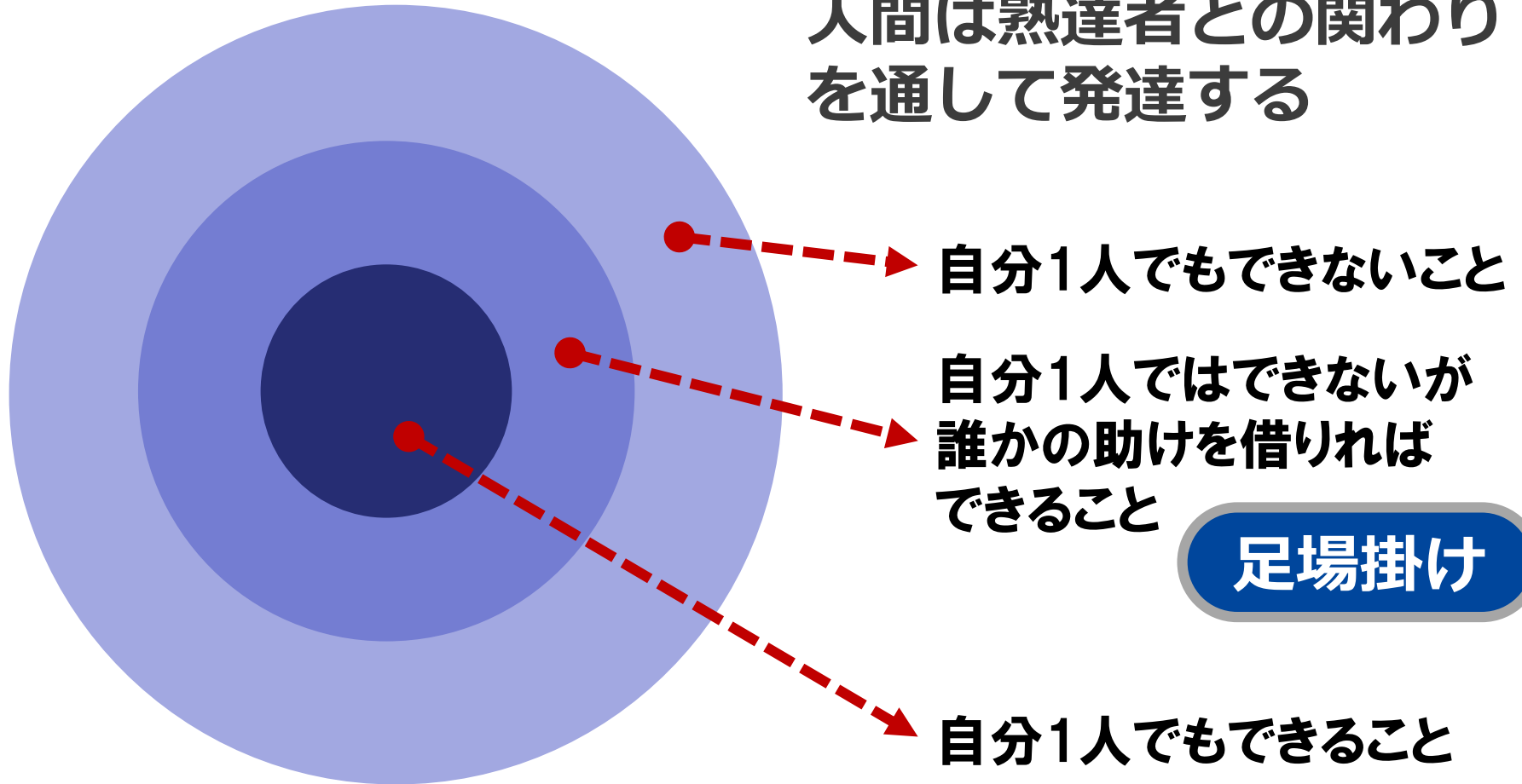
## ■ アクティブラーニング

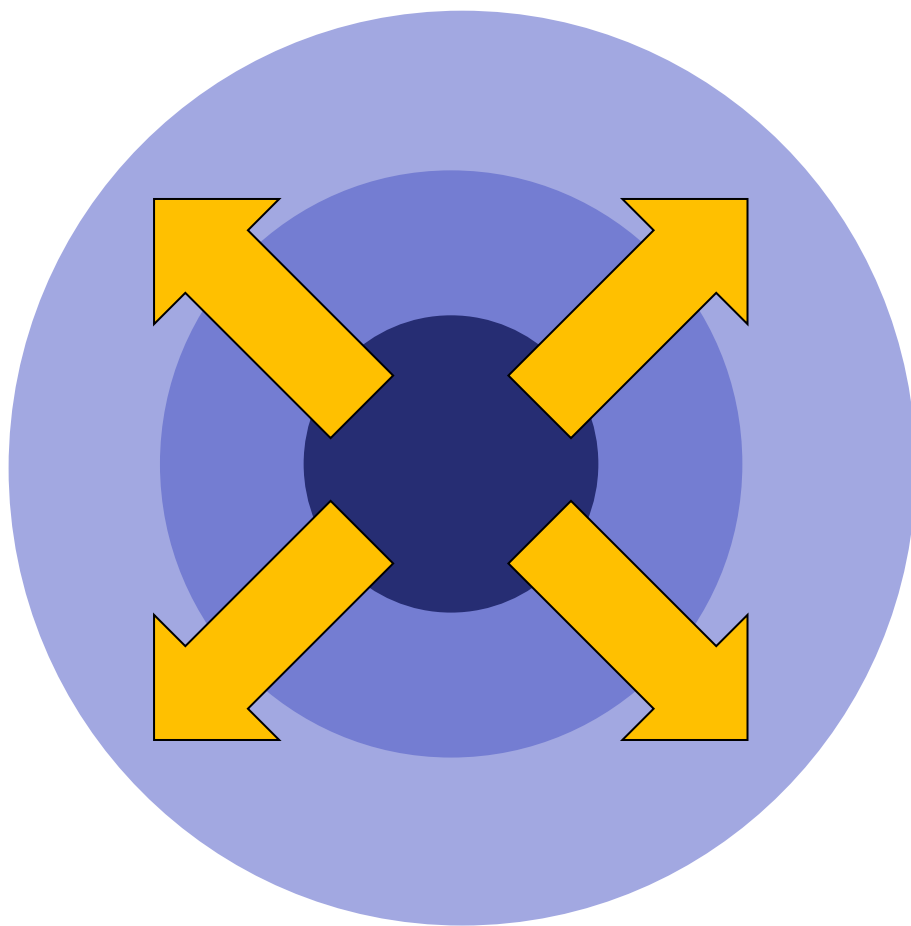
- ✓ グループワーク、討議、討論、説明、質問、プレゼンテーション、ポスターセッション

**\* 学生は能動的**

# 最近接発達領域 (Vygotsky, 1934)

人間は熟達者との関わり  
を通して発達する

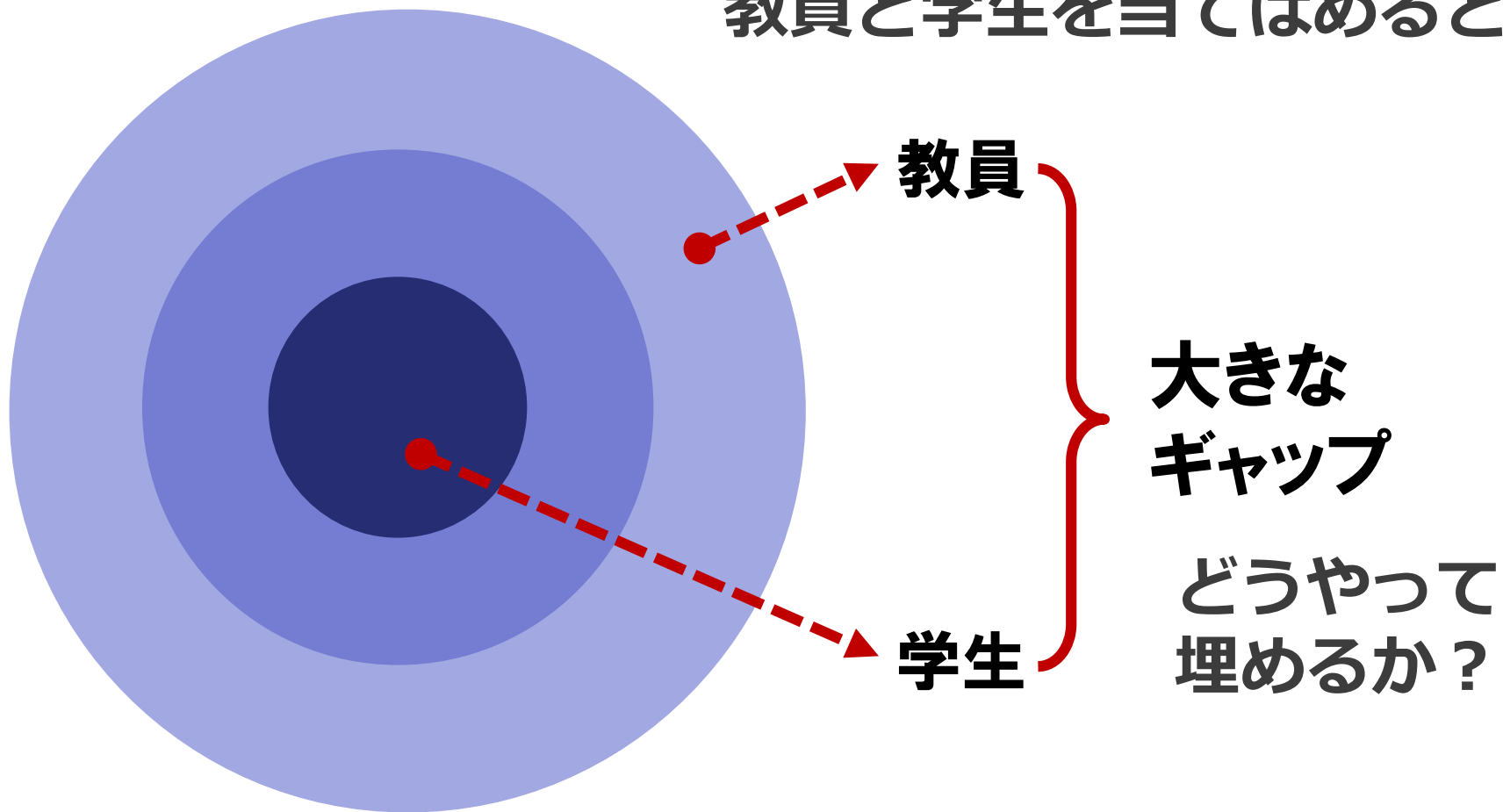


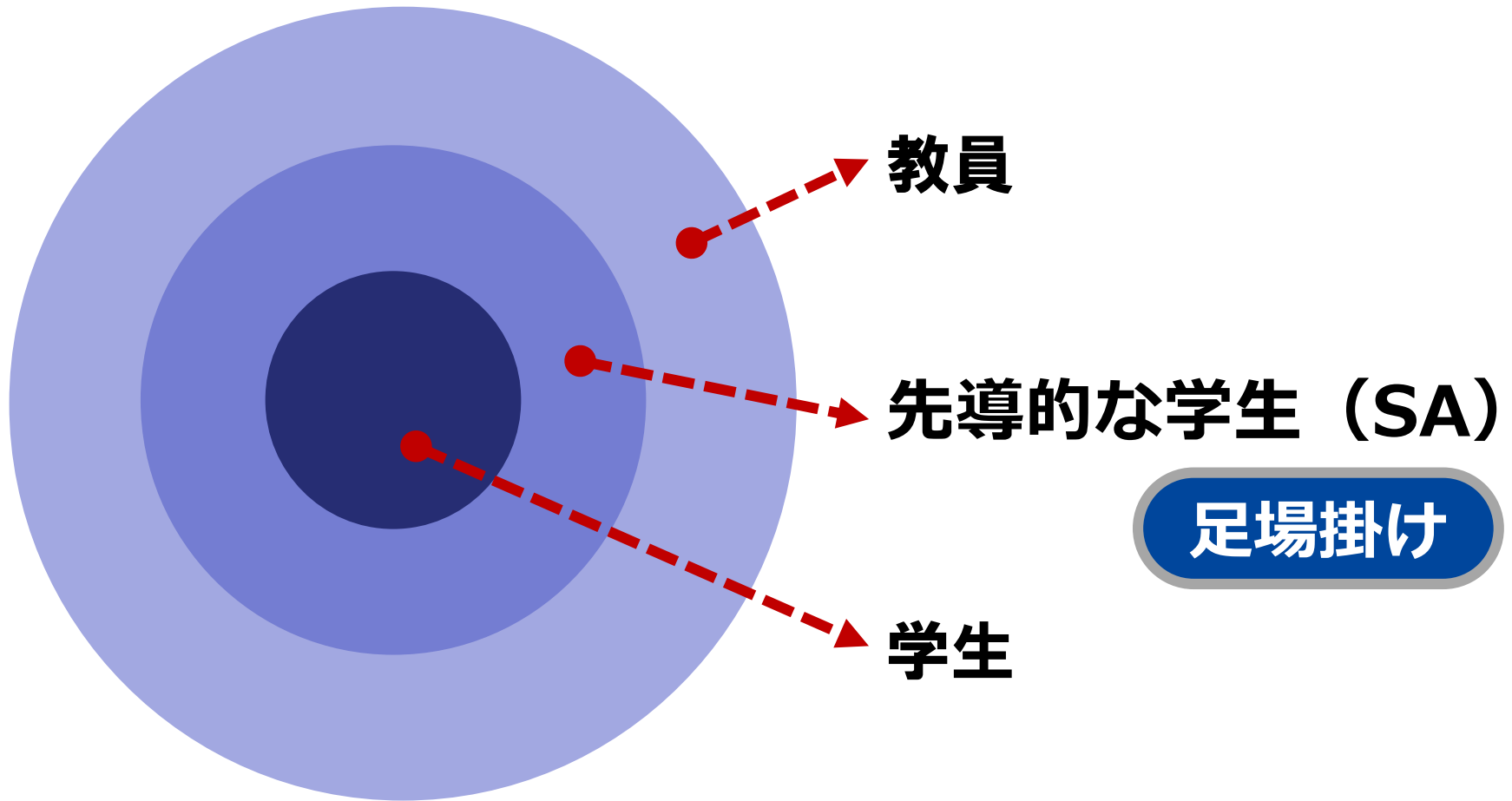


誰かの助けを  
借りながら  
取り組む中で、  
できることが  
増えていく



教員と学生を当てはめると...





# 先導的な学生

＊「これからの能力」を育成するには、  
学習活動の中における関わりの中に、  
**先導的な学生が必要**

## ■ 先導的な学生との関わり

- ✓ 初めが肝心：これからの学習観を体現させる
- ✓ 初年次教育で

## ■ 先導的な学生の育成

- ✓ 初年次教育をベースに

## ■ 基礎演習I

創価大学教育学部の例

- ✓ 1年次・前期・必修
- ✓ 200人程度(学部生全員)
- ✓ グループワーク(7~10人/1G)
- ✓ 先導的な学生として、SAが補助(1人/1G)

## ■ 基礎演習II

- ✓ 1年次・後期・選択
- ✓ 40人弱
- ✓ 先導的な学生になることを意識しつつ
- ✓ ALを通して基礎的なスキルを学んだ後、PBL

# 育成する汎用的能力

1. メタ認知
2. タイムマネジメント力
3. キャリアヴィジョン
4. アカデミックスキルとしてのレポート作成能力
5. 非言語コミュニケーション能力

## 基礎演習I

- 
6. 多声的思考
  7. 知的ツールの活用
  8. 協同学習のスキル

## 基礎演習II

# 汎用的能力と専門的能力の関連

## 専門的能力

創価大学教育学部の例

### ■ 教育方法論（授業設計）

- ✓ 教育心理学、教育評価、カリキュラム論...

## 汎用的能力

### ■ 多声的思考

- ✓ 様々な立場の、様々な人々の意見や思いを取り入れて考える力

### ■ メタ認知

- ✓ 自分で自分をPDCAする力
- ✓ 自身を多角的に客観視する力

# 専門科目と先導的な学生

## ■ 専門的能力を育成する専門科目

＊ 専門的能力の育成においても、  
これからの学習観が必須

＊ アクティブラーニングは増えつつある

＊ “足場掛け”としての“先導的な学生”が必要

# 本日のまとめ

## ■ 汎用的能力と専門的能力

- ✓ 接続：初年次教育、専門科目
- ✓ 育成：社会文化的アプローチに基づいて

## ■ 足場掛けとしての先導的な学生の育成・活用を教育プログラムに組み込む